

タイトル

搾乳器の使用感について 第2報

— 搾乳口と乳房の接触具合に関するサーモグラフィ測定 —

ピジョン株式会社 中央研究所

平田 尚子、齊藤 哲

【目的】

搾乳器の使用感に影響を及ぼしている要因として、吸引圧、吸引リズム、乳房と搾乳口とのフィット感等があげられる。搾乳口でのフィット感において、乳輪、乳首、乳頭を含めた乳房各部位と搾乳口との接触の仕方を詳しく把握することの重要性がわかってきている。今回、搾乳口と乳房の接触具合を赤外線サーモグラフィにより詳しく検討した。

【対象と方法】

対象：2～3 ヶ月の乳児を持つ母親 4 名、全ての母親が母乳育児を実践しており、搾乳器使用に同意を得られた母親が対象者となった。手順：P社の電動搾乳器を使用し、2 種類の異なる形状の搾乳口カバー（A：乳輪接触部分が突起している/B：乳房接触部分が突起している）を装着させ、サーモグラフィ（TH9100：NEC/Avio）を用いて、搾乳器使用直前・直後の乳房表面皮膚温度を測定した。倫理的配慮として本研究は、事前に観察内容を説明し、同意を得た上で行った。

【結果】

約 2 秒に 1 回のリズムで吸引をかけて搾乳した時の、ビデオカメラによる乳房外観映像とサーモグラフィ映像を同期させた記録から以下の特徴が確認された。1)カバーA において、搾乳中、カバー突起部分が乳輪接触部分に連続して接触、密着しているため、接触部分の皮膚温がやや上昇した。2)カバーB において、搾乳中、突起部分が乳房接触部分（外縁部）に連続接触し密着感が高く維持され、皮膚温がやや上昇した。3)両カバーにおいて、連続的に接触していない乳房表面部の皮膚温は、搾乳口を外した直後、直前時よりもやや下降した。つまり、搾乳中、連続して接触している部分は密着感が高く、サーモグラフィにおいて皮膚温の上昇がみられる一方で、吸引リズムに合わせて皮膚と触れたり離れたりを繰り返している部分は密着感が低く、皮膚温が低下する様子がみられた。今後、搾乳口と乳房の接触具合について、フィット感の良し悪しとの関連性も含めて詳しく検討する必要がある。